

## 65 歳以上の高齢者に対する下顎再建術式の検討

### 研究対象：

2006 年 1 月～2014 年 12 月に、国立がん研究センター中央・東病院において口腔がんに対して下顎区域切除・下顎再建手術を受けた 65 歳以上の方々の診療録を対象とし、高齢者に対する下顎再建術式の選択基準を作成するための情報収集を試みます。

### 研究の概要：

口腔内に生じたがんが下顎骨に浸潤した場合、下顎骨の部分的に切除する下顎区域切除が行われます。切除後、下顎骨が部分的に欠損することになりますので、通常は下腿や背部から自分の骨を血管付きで採取して、顕微鏡を使って欠損部へ移植することにより下顎骨を再建します。この方法は、元の噛み合わせの状態や顔貌を維持するのに大変優れた方法ですが、手術時間が長かったり、出血量が多いため、高齢者の方には適応できないことがあります。そのような場合、チタン製プレートを埋入して下顎骨の代わりにする方法や、皮下脂肪・筋肉を移植することで下顎骨の切除されたスペースを充填する方法で再建が行われます。患者さんにどの術式が適しているかについては、年齢や全身の状態、下顎骨の切除される部分、残っている歯の状態などによって変わってきますが、どのような状態の患者さんにどのような再建術式が適しているかについてははっきりした選択基準が存在しないのが現状です。

本研究では、過去に当センターで下顎再建術を受けた 65 才以上の高齢者の方の術前・術後の状態を調べ、個々の患者さんに最も適した下顎再建術式を選択する基準を作成することを目的としています。

### 研究の意義：

現在でもそれぞれの患者さんの病状に応じて、最適と思われる下顎再建術式を選択していますが、術後の合併症や摂食障害・顔貌変形などの後遺症の発生を術前から予測することは容易ではありません。本研究により、高齢者に対する下顎再建術式の選択基準が明らかになれば、再建術式を選択をより適切に行うことができ、結果として安全に手術が行え、患者さんの生活の質（QOL）を保つ治療法を行うことが可能になります。また、将来的には下顎再建術式の改良にもつながる可能性があります。

### 目的：

下顎再建術後に、どのくらいの方が創部や全身の合併症・摂食障害を生じたかを調べ、再建術式ごとに発生率に差があるかを調べることを目的とします。

### 方法：

当センターで2006年1月から2014年12月の間に口腔がんに対し下顎区域切除・遊離皮弁移植を受けられた患者さんの診療録より必要な情報を収集します。情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。この作業で収集した情報を解析して、各再建術式間の合併症の頻度につき検証します。

**個人情報保護に関する配慮：**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

〒104-0005 中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 形成外科 宮本 慎平（研究責任者）

FAX 03-3545-3567/TEL 03-3542-2511

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 形成外科 櫻庭 実

FAX 04-7131-4724/TEL 04-7133-1111